

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No.34 2012年6月

第35回理事会・第12回通常総会を開催	2
2011年度（平成23年度）事業報告	2
2012年度（平成24年度）事業計画	5
2011年度（平成23年度）決算及び2012年度（平成24年度）予算	6
役員等	6
正会員（法人）の入会	4

政府機関関連への協力	メキシコ国の生活風土と水環境への意識	7
自治体・中小企業支援	実感！ 食材王国 あおもり	8
	富山県 環日本経済交流センターでの活動	9
教育	多摩大学での講義「イスラームの食文化」を終えて	10
	立正大学での英語による講義	11
	茨城県水戸市・大成女子高等学校で国際理解講座を開講 「日本語指導を通じてみたブラジル・アマゾンの日系人社会」	12
非政府機関支援	エコロジー促進事業協同組合が実施する外国人技能実習生への日本語研修 —ABIC会員40名が講師として登録 フィリピン人技能実習生へ日本語を教える	13
留学生支援	東京国際交流館 春の新入館者歓迎バザー	14
	会員の種類	15
	ABIC賛助会員入会のお願	16
	ABICの人材紹介・推薦のご案内	16

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町 2-4-1
世界貿易センタービル 6 階 (社)日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-4-24 住友生命本町第 2 ビル 9 階
Tel & Fax : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第35回理事会・第12回通常総会を開催

5月31日（木）、日本貿易会会議室において第35回理事会並びに第12回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2011年度事業報告及び収支決算、②2012年度事業計画及び収支予算、③任期満了に伴う役員の選任が審議され、いずれも原案通り承認されました。



2011年度（平成23年度）事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 <活動実績：2011年度 延べ人数 1,391名> <活動会員数：2,194名（2010年度末比86名増加）>	活動実績 (延べ人数)		
			2011年度	2010年度	00～11 年度累計
政府機関 関連	ODA関連等 への人材推 薦・紹介、 政府関係諸 事業の受託、 本邦中小企 業支援関連 への人材推 薦・紹介、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣 等	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、外務省領事シニアボランティアで9カ国、合計10名が常駐または中長期出張ベースで活動（東ティモール、チェンジア、インド、パキスタン、コスタリカ、パナマ、コロンビア、アルゼンチン、メキシコ、へ各機関からの派遣）。 国内での活動：JETROの輸出有望商品発掘事業（3名⇒5名）、JETRO非常勤嘱託職員、中小企業基盤整備機構の中小企業支援事業アドバイザー・販路開拓ナビゲーター、及びAOTSでの研修講師、JODCでの講師派遣など協力を継続。文部科学省拠出金支出案件（国際移住機関/IOM が執行）「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室／常総、下妻）」は3年目となり、また文化庁による「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託した。 上記諸機関並びに経済産業省、中小企業庁、文部科学省、近畿経済産業局、関東経済産業局、中部経済産業局等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件への対応であったが、推薦・紹介・受託による活動を行い、2011年度には中部経済産業局で2名の上級アドバイザーが新規採用された。 	106	102	903
NGO/NPO 等非政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NPO国連世界食料計画WFP協会にエキスパート・ボランティアとして、またNPO産業技術活用センター（日本経団連のメンター事業を協同推進）にメンター登録して適宜支援活動を継続。NPO法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の賛助会員としてNPO活動に関する情報収集を行っている。 	11	11	146
地方自治体・ 中小企業支援	地方自治体 の推進する 中小企業育 成支援（販路 開拓、海外ビ ジネス促進 等）や農産 品輸出促進・ 企業誘致等 への協力、 及び中小企 業への直接 支援・協力 （海外進出・ 経営支援等）	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県、山口県/産業振興財団、山梨県/産業支援機構、福岡県、富山県/新世紀産業機構、千葉県/ジェトロ千葉貿易相談センター）との取組み継続に加え、横浜市/ジェトロ横浜貿易情報センター、和歌山県/わかやま産業振興財団との取組みを開始した。大分県の首都圏販路拡大支援事業は本年度は取り止めとなった。 他の地方自治体関係では、東京都中小企業振興公社ビジネスナビゲーター及び海外販路開拓アドバイザー、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコア の他、宮城県/長野県/神奈川県/三重県/兵庫県/島根県/愛媛県/福岡県/和歌山県の企業誘致や販路開拓アドバイザー等で活動、静岡県でのビジネス相談会に加え、あきた企業活性化センター、青森県物産振興協会への輸出コーディネーター、茨城県中小企業振興公社への食品輸出アドバイザーの紹介を行った。また各自治体主催のセミナーへの講師派遣も要請に基づき、都度行った。 2011年度は過去の活動実績の評価が高まっており、口コミ、ホームページ、会員経由等により、これまで実績の無い地方自治体や中小企業からの直接の支援要請も増加、活動機会が広がっている。 	449	526	2,875
外国企業支援	外国企業の 日本進出・ 販路開拓支援 及び日本企業 海外赴任者 相談	<ul style="list-style-type: none"> 例年のNanotechでのバイリンガル・ビジネス・アドバイザーの活動に加え、オーストリア大使館など在大使館からの依頼にも対応している。また米国・韓国企業からの日本でのビジネスについての相談や日本企業の海外赴任者相談会への講師紹介を行っている。2010年度に受託したジェトロ対日貿易部との業種別アドバイザー契約が今年度は受託出来なかったこと、また東日本大震災の影響で外国企業訪問が減少、活動実績も減少となった。 	45	93	378

活動分野	主要事業	主な活動状況 <活動実績: 2011年度 延べ人数 1,391名> <活動会員数: 2,194名 (2010年度末比86名増加) >	活動実績 (延べ人数)		
			2011年度	2010年度	00~11 年度累計
教育	大学及び 社会人講 座	<ul style="list-style-type: none"> 44大学・組織へ講師派遣。年間講座数84、コマ数 1,563を実施。多摩大学での講座拡大、立命館APUの夏期集中講座など講座数は8件増やせたが、講師数は同じ講師が複数の講座を受け持つケースが増加した為に昨年度比微減となった。引続き、講師の入替えや魅力ある講座の組立に注力した。 新規講座として金城学院大学、中京大学、阪南大学、関西大学・大学院など、また新規の英語での講座として立正大学「日本の経済」を受注した。金沢大学を中心とした4大学グループが行う「eラーニング教員免許更新講習」運営に引続き協力し、ABICが受け持つ講座の他大学への販売協力を行った。 文部科学省主催のセミナーなどでABIC大学講座の取り組みPR活動を行った成果として、多数の大学よりABICの講座に対する問い合わせが来ており、2012年度の新規講座獲得に向けて各大学との協議を行っている。 	311	317	2,976
	国際理解 教育支援 等	<ul style="list-style-type: none"> 小中高生や教職員への国際理解講義・講演会へ引続き注力した。また「こども大学かわごえ」などとの関係先増が図れた。 関西学院大学（2003年2月に連携協力協定締結）との協力関係を進め、引続き海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」（一泊二日）を関西で実施した。関西での青山学院大学との連携は東日本大震災の影響で短期留學生が集まらず、中止となったが、2012年度は実施予定。また、2007年度から正課に昇格した関西学院大学で夏季に開催される高大連携授業の側面支援も引続き行い、2012年度の授業ではABICの会員が1コマ講義を行った。 多摩地区の小中学校における在日外国人児童への日本語指導、新宿区教育委員会に協力しての日本語指導を引続き実施して評価を得た。 	46	76	684
在日留學生 支援	在日留學生 支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において、引続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。また、交流館正月行事の一環として書初め大会をABICが指導した。 2006年度から開始した国際交流館在住の留學生家族支援(健康診断、子女入園・入学手続き等)が増加し、大変好評を得ている。 	280	179	1,204
国際イベント 等	国際イベント 等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 2011年度は国際イベントが実施されず、実績はゼロであった。 	0	0	129
その他活動・ 一般求人等	その他活動・ 一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> 会員会社の社会貢献事業への支援を継続（三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」①奨学金供与プロジェクト、②学校支援事業フォローアップ等）。 教育及び留學生関係で、過去紹介した帝京大学/日本文化大学/LEC大学教授・講師、及び学生情報センターの紹介による政策研究大学院大学国際交流会館管理業務者も継続となった。新たにグローバル人材の育成を行う(株)グローバル教育への講師、外国の日本語弁護士事務所での法律用語解説講師、日本貿易会へ東日本大震災人道支援策の現地調査員を紹介などを行った。 ABIC日本語教師養成講座（第10期及び第11期）を継続した。講座修了者は国際交流館での日本語広場講師として、また新宿区の日本語講師として活躍中。新規にエコロジー促進事業協同組合の外国人技能実習生受入事業部との提携を行い、日本企業で働く外国人技能労働者への日本語教育に携わっている。 日本貿易会内の業務効率化支援として、新聞クリッピングへの協力を継続。 	143	124	692
合 計			1,391	1,428	9,987

活動会員 関係	活動会員 増強	<ul style="list-style-type: none"> ABICの入会案内チラシを更新し（裏面にABIC活動紹介・実績を掲載）、引続き社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。コーディネーター会議において各社OB会のホームページへのリンク依頼の案が出ており、一部にはリンクされているが更に拡げる活動を行う。
	活動会員 スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も大学・EC等 講座講師勉強会を実施した（東京10月28日 19名参加）。また、英語による講義の需要増大への対応として英語授業法勉強会を今年度も東阪で実施（東京8月26日21名、大阪8月24日11名。共に立命館大学准教授を招聘）。 2006年10月から開講した日本語教師養成講座を継続し、第10期8名、第11期5名が修了証を手にした。第8期までの卒業生98名のうち約半数が、ボランティア主体で日本語講師を務めている。

<p>広報活動等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 6/11/3月 No.31/No.32/No.33）。 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。また日本貿易会のホームページにおいてもABICのホームページをリンクして貰っている。 ホームページを大幅に改訂し、各種問い合わせをし易くした。 金沢で開催された北陸AJEC主催のアジア企業進出セミナーにおいて、ABICの中小企業海外進出支援活動を紹介。群馬県の県庁職員への中小企業及び貿易実務セミナーにてABICの活動を紹介した。 新聞報道：①読売新聞（2011年7月17日和歌山県版）にて和歌山県が東京に設置した「わかやまビジネスサポートセンター」でのABICによる営業活動相談の紹介②建設工業新聞（2012年3月7日）・北陸中日新聞（2012年3月18日）に北陸AJEC主催のアジア進出セミナーでのABICによる中小企業の海外進出支援提供が紹介された。 文部科学省主催の全国及び政令指定都市国際理解教育主事連絡協議会においてABICの国際理解教育への取り組みを説明、PRに努めた。 今年度も、東京国際交流館主催の春・秋の新入館者歓迎会にてバザーを実施。また、夏の「交流館フェスティバル 2011」において、ABICが指導している華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーについては、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役職員から多くの品物の寄贈を頂戴してほぼ完売となり、売上金の殆どを、夏祭りの浴衣や交流館の行事に役立てて貰うべく寄贈した。
<p>事務局関係</p>	<p>事務局体制</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター、プロジェクトスタッフについては昨年度と同じ23名とした。なお、在日ブラジル人子女教育支援の特定プロジェクトスタッフ及びパートタイマーとして、複数名任用。 <p>経理・総務： 扇 文子、黒木裕美、（橋本政彦）、道家千波</p> <p>地方自治体・中小企業支援グループ： 高廣次郎、佐藤 徹、野津 浩 [参与/プロジェクトスタッフ=新規案件開拓]</p> <p>外国企業支援グループ： 西山勝昭</p> <p>大学・EC講座グループ： 増田政靖、森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、恩田英治</p> <p>小中高校国際理解教育グループ： 角井信行、川俣二郎</p> <p>産学協同プロジェクトチーム： （角井信行、川俣二郎、大西稔男、橋 弘志）</p> <p>留学生支援グループ： 田中武夫、鏝形勲</p> <p>アジアグループ/中国デスク： <空席></p> <p>インドネシア・インド他デスク： 橋本政彦</p> <p>メコンデスク： 篠崎 尚 [プロジェクトスタッフ]（森 和重）</p> <p>中南米デスク： （森 和重）</p> <p>在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム：（森 和重）、畑 宏幸、高岡淳二、星野和俊、藤原真理、松本一子、石井明美</p> <p>「虹の架け橋教室」推進チーム：（森 和重）、栗田政彦、三田浩二、内野敬一、他現場担当コーディネーター/パートタイマー</p> <p>関西デスク： 藤原照明、大西稔男、橋 弘志、赤田 堅 [プロジェクトスタッフ]、吉富 [プロジェクトスタッフ]</p> <p>事務局運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局員1名休職につき、経理関係常駐事務局員として派遣会社とスタッフ派遣の契約を継続した。（2011年8月、事務員復帰につき解約） 全省庁統一資格の更新など諸契約、規則・規程の整備は適宜進めた。

<p>事務局関係</p>	<p>正会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人：17社、1団体（2010年度より1社増加）：伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、兼松（11年12月入会）、協同木材貿易、興和、JFE商事ホールディングス、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順） 個人：9名（2010年度同様）：池上久雄、寺島賢郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫、勝俣宣夫、小林栄三（入会順）
	<p>賛助会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人：3社（2010年度同様）：（有）イーコマース研究所、(株)エックス・エヌ、キーリサーチネット(株)（五十音順。いずれも活動会員が所有する会社） 個人：381名（2010年度末比 54名減）…新規登録もあったが、退会者（死亡退会者含む）があり、賛助会費未払会員の整理を行ったので大幅減少
	<p>活動会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2,194名（2010年度末比 86名増）

年度毎活動実績	延べ人数
2000年度（H12）	16
2001年度（H13）	213
2002年度（H14）	458
2003年度（H15）	586
2004年度（H16）	562
2005年度（H17）	694
2006年度（H18）	767
2007年度（H19）	1,132
2008年度（H20）	1,307
2009年度（H21）	1,430
2010年度（H22）	1,428
2011年度（H23）	1,391

正会員（法人）の入会

兼松株式会社 2011年12月 入会

2012年度（平成24年度）事業計画

活動分野	主要事業	重点活動内容	延べ人数		
			12年度 目標目標	11年度 目標実績	
政府機関 関連	ODA関連の 人材推薦、 政府機関諸 事業の受託、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省領事シニアボランティア等の確保。 国内での活動：JETRO輸出有望発掘案件支援・非常勤嘱託職員・貿易相談員、中小企業基盤整備機構、及びHIDA（財団法人 海外産業人材育成協会）等での研修講師派遣の受託増。文部科学省（国際移住機関）事業「虹の架け橋教室」の継続受注（済み）と円滑な運営。 経済産業省、JETRO、JICA、外務省、文部科学省、文化庁、観光庁、農林水産省、HIDA等とのコンタクト維持・強化。 	100	106	
NGO/NPO 等 非政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NGO、他NPO、国際機関とのコンタクト強化。 	10	11	
地方自治体・ 中小企業支 援	自治体の国 際化・中小 企業の販売 促進活動・ 海外進出・ 経営支援・ 協力中小企 業への直接 支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県、わかやま産業振興財団、山口県/産業振興財団、山梨県/産業支援機構、富山県/富山県新世紀産業機構、福岡県、横浜市など）との一層の関係強化。新規の年間業務委託契約の獲得。 継続支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター・海外販路開拓非常勤職員、大阪府/東大阪市共同のクリエイションコア、神戸市/産業振興財団、企業誘致アドバイザー＝宮城県、和歌山県、島根県、愛媛県）との一層の関係強化。他地方自治体への積極的なPR推進の継続と受託案件の増大。 中小企業からの直接支援要請に即応。 	500	449	
外国企業支援	外国企業の 日本進出・ 販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> 国際見本市関係業者とのコンタクト強化・拡大。在日大使館、外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大。 在日海外企業との連携強化・拡大。海外赴任者研修への取り組み継続。 	50	45	
教育	大学及び 社会人講 座	<ul style="list-style-type: none"> 実施大学・組織及びコマ数の維持、講師層の拡大（含、英語による講座拡大）。 提案型講座の拡大。 2006年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化。 2003年12月に連携協力協定締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。 2007年10月に包括提携協定締結の桃山学院大学との関係強化（講座維持、提携校来日研修ミッション受入れ支援等）。 	300	311	
	国際理解 教育支援 等	<ul style="list-style-type: none"> 新規の小中高等での講義・講演先の開拓。文部科学省、自治体教育委員会並びに日本経済教育センターとの連携強化 産学共同プロジェクトとして、関西学院大学・青山学院大学との協力してH19年度から実施している「高校生国際交流の集い」の企画・実施。 多摩地区の小中学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援。新宿区教育委員会「日本語指導支援（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）支援の継続。 	100	46	
在日留学生 支援	在日留学生 支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室の一層の充実化及びバザー、フェスティバル等の催しへの引続きの協力。 東京国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、通院、育児・健康・療養相談、転入手続き、入園・入学手続き等）の継続。 	250	280	
国際イベント 等	国際イベント 等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 語学ボランティア活動の需要のあるイベントに適宜対応。 	10	0	
その他活動・ 一般求人等	その他活動・ 一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> NPO、NGO主催のイベントへのボランティア人材紹介 三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援の継続、日本貿易会並びに法人正会員各社の実施する社会貢献活動への人材面での支援・協力。 帝京大学・日本文化大学・LEC東京リーガルマインド等への教授・講師、東京学芸大学付属国際中等教育学校事務員、グローバル教育講師の契約更新継続。他、教育機関関係を主体とした新規の人材紹介。 外国人技能労働者への日本語指導講師活動の継続 ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力 	130	143	
合 計			(2011年度比 4%増)	1,450	1,391

活動会員関係	活動会員勧誘	● 社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB/OGへの入会案内配布協力の継続要請、及びOB/OG会総会及びホームページ等でABIC紹介の機会を貰い勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。
	賛助会員勧誘	● 賛助会員数の増加に向け、活動が決まった会員への賛助会員入会依頼を継続。
	活動会員スキルアップ	● 日本語教師養成講座の第12期、第13期を継続開講（H18年10月から継続）。 ● 大学等講座講師勉強会（含、英語授業法）を継続実施。
	懇親会	● 東京・大阪での開催を予定。2011年度は11月に東京、3月に大阪で実施。
法人会員関係	法人会員勧誘	● 法人会員増に向けて注力。2011年度は新規法人会員として1社が入会。

広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行（年3回 6/11/3月） ● 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーやJFTC News（英文）でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。 ● ABICパンフレット適宜手直し（2012年10月頃）。英文パンフレットの改訂に着手。 ● 今年度も東京国際交流館が主催する春・秋のバザーや「交流館フェスティバル」にてABICのPRや活動紹介を行う。 ● ホームページの内容見直し・更新及び一層の充実。 ● 新聞、TV、ラジオ、雑誌等へのABICの露出度拡大（マスコミへの積極的対応）。 	
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> ● コーディネーター並びにプロジェクトスタッフ同士の情報交換促進。 ● 経理・税務・総務担当の充実を図る。
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種データの整理等、業務改善への更なる注力。 ● 諸契約、規則・規程の一層の整備。

2011年度（平成23年度）決算及び 2012年度（平成24年度）予算

(単位:千円)

科目	2011年度 決算額	2012年度 予算額
I 収入の部		
(1) 会費収入	6,870	6,890
法人会費	(4,880)	(4,880)
個人会費	(1,990)	(2,010)
(2) 受託事業収入	123,079	126,983
日本貿易会	(23,520)	(23,520)
その他	(99,559)	(103,463)
(3) 寄付金収入	0	0
(4) 雑収入	256	480
収入合計	130,205	134,353
II 支出の部		
(1) 一般管理費	18,335	20,320
(2) 受託事業費	107,751	113,508
(3) 器具備品等	1,365	3,000
(4) 敷金保証金支出	1,380	0
(5) 退給付引当預金	339	330
支出合計	129,170	137,158
収支差額	1,035	-2,805
前期繰越金	28,557	29,592
次期繰越金	29,592	26,787

役員等

(敬称略・就任順)

会 長	檜田 松瑩	一般社団法人日本貿易会 会長 三井物産株式会社 取締役会長	
名誉会長	勝俣 宣夫	前当センター会長、前日本貿易会会長 丸紅株式会社 取締役会長	
副 会 長	朝田 照男	丸紅株式会社 代表取締役社長	
	岡藤 正広	伊藤忠商事株式会社 代表取締役社長	
	小林 健	三菱商事株式会社 代表取締役社長	
	加留部 淳	豊田通商株式会社 代表取締役社長	
	(新任) 中村 邦晴	住友商事株式会社 代表取締役副社長・執行役員	
	(新任) 佐藤 洋二	双日株式会社 代表取締役社長	
理 事 長	市村 泰男	一般社団法人日本貿易会 常務理事	
常務理事	伊地知 紀仁	一般社団法人日本貿易会 社会貢献グループ部長	
理 事	藤山 知彦	三菱商事株式会社 執行役員コーポレート担当役員補佐(特命担当)	
	松井 勇巳	一般社団法人日本貿易会 理事 企画グループ部長	
	三輪 裕範	伊藤忠商事株式会社 伊藤忠経済研究所所長	
	青木 雄一	三井物産株式会社 理事 環境・社会貢献部長	
	鈴木 秀樹	豊田通商株式会社 総務部社会貢献室長	
	武井 徹	住友商事株式会社 環境・CSR部長	
	原田 信二	双日株式会社 広報部長	
	工藤 登一	丸紅株式会社 市場業務部部長代理	
	監 事	天野 正義	一般社団法人日本貿易会 専務理事
	顧 問	池上 久雄	初代当センター理事長、元日本貿易会常務理事
吉田 靖男		元当センター理事長、元日本貿易会常務理事	
三幣 利夫		前当センター理事長、前日本貿易会常務理事	
参 与	宮内 雄史	初代センター常務理事、初代日本貿易会社会貢献グループ部長	
	野津 浩	元当センター常務理事、元日本貿易会社会貢献グループ部長	
	名鏡 敬治	前当センター常務理事、前日本貿易会社会貢献グループ部長	

政府機関関連への協力

メキシコ国の生活風土と水環境への意識

JICA 専門家・メキシコ CONAGUA (国家水委員会) 水質保全業務指導アドバイザー **工藤 眞也** (OPC 株)

1. メキシコは太陽ざらざらの常夏の国？

マヤ、アステカの古代文明を有する中南米のメキシコ、殆どの方が常夏の熱帯をイメージされていると思う。我が国の約5倍の面積を有するメキシコは、地域によって標高に大きな違いが見られる。標高2,300mに位置する首都メキシコ・シティは“一日の中で春夏秋冬”があるとされるほど気温の変化がある。一方、太平洋沿岸に位置するアカプルコ正に常夏の蒸し暑さが続く。また、更に北方のサン・ルイス・ポトシ州は乾燥地帯であり、メキシコ湾に近い山岳地帯は豪雨見舞われる。従って、メキシコの気候はとて一口では言い表すことができない。

2. 雨と友達のようなメキシコ人

10年前に2年間、初めての中南米生活で様々なカルチャーショックを経験したが、未だに心動かされる生活習慣がある。やはりメキシコにも雨季があり、3月から6月にかけて夕方6時頃、雷とともに定期的に降り始める時期がある。

ある程度予測できるので、降り始める前に避難場所を求めて走りだすのは私だけで、皆さんよほどの強い雨でないかぎり全く気にせず歩いている。傘を持っていない人が7~8割で、10年前は傘を販売している店をさがすのが大変だったが、最近では大型スーパーで販売されている。

3. のんきな性格と言われているメキシコにも水質環境の大きな変化が

よく言われる例えであるがメキシコでは、約束が保障されていないと言われている。何かをお願いしても「ちょっと待って」は1時間、「明日まで待って」は何週間後、「来週まで待って」はもう何時になるか分からないと言われている。意外とこれは彼らの中でも深刻な問題のようで、私の友人も悪い習慣だと嘆いていた。しかし、私たち日本人には約束の時間が正確であることを知ってのことか、約束の時間を厳格に守ってくれることに感動したこともある。

そのような国民感情を知っていたので、環境の整備もか



地方自治体に設置された小規模プラント施工掲示と筆者

なり時間を要するのではと懸念していたが、この10年間で下水道施設の普及は目を見張るものがある。10年間前には数10カ所であった下水道処理施設は、現在では1,800ヶ所にまで達しており、様々な処理方式を採用していた。一説によると数年前の蔓延したインフルエンザの影響もあるとのこと耳にするが、水環境に対する国の意識は大きく変化している。欧米諸国、スペイン等の経済援助が見られるが、日本の大手商社による下水道事業の支援も大規模な形で進んでいる。

ケタラ州で視察した下水道施設は日本の商社が地域の企業を参入させ、大規模事業で最先端の技術を導入した廃棄物リサイクルの省エネルギーシステムを導入していた。欧米諸国の援助による下水道施設も全自動式維持管理システムを取り込んでおり、メキシコの環境改善のお手本になるものと期待される。

現在、派遣先のCONAGUA (国家水員会)に残された問題は、地方自治体の中小市町村の対策である。これらの地域は大都市とは異なり、更に省エネルギー、維持管理の省力化が望まれるので、長い下水道技術の経験を有する日本技術の指導が大きな力を発揮するものと思われる。

写真は派遣期間中に政府の資金で建設した地方自治体の小規模下水道工事の施工掲示フラッグ。

2年間にわたって設計施工計画を指導し、現在なお工事進行中である。また、メキシコは途上国として支援を受ける立場ではなく、近隣の諸国へ技術援助をする側に立って将来活動することが期待されている。



大雨の中を傘なしで歩く通勤者



日本の大手商社によってケタラ州に設置された下水道施設 (全体模型)

自治体・中小企業支援

実感！ 食材王国 あおもり

社団法人青森県物産振興協会 青森県産品輸出促進員 **のうもり 農守 義文** (元 伊藤忠商事)

青森県の依頼を受け、青森県物産振興協会に属し、青森県産品輸出促進員として活動している。2011年7月初めに右も左も分からない中、ワイフの協力のもと青森市への単身赴任となった。そんな中、青森県人の特徴の一つとされる無口なるも粘り強く心優しい県庁、物産振興協会の人たちに支えられ、無我夢中で過ごし、もうすぐ1年になるうとしている。

伊藤忠商事を退職後、ここに至るまで短期間に色々な仕事を経験してきた。専門の繊維原料の国内での活動はどんどん縮小し、業界全体が海外に拠点を移す中、海外営業を知るといふ経歴を生かした仕事は国内の繊維業界ではほとんど見当たらずとなり、自分の周りでたまに出てくる海外営業の話もIT関連・機械類の営業マンの募集であった。2011年5月、ABICより青森県産品の海外営業の話があり、専門外の食品の話なのでまた駄目だろうと思いつつも面接に出掛けるところ首尾よく採用になった。

赴任後、本格的に食品を学ぶにつれ分ってきたのが、食品は繊維原料と似て、IT関連・機械類のような技術的な専門家である必要が少ないということであった。両業界の基本的な違いは、食品には賞味期限、繊維原料にはロット区分があるぐらいである。採用時に課題の一つに挙げられていた100アイテム以上のカタログの作成とその英訳を達成するために、多くの食品メーカー・食品展に連れて行ってもらった。これが食品について学ぶのに非常に参考になった。その過程で、これまで生活してきた関西・関東エリアおよび駐在したテヘラン、ラゴス、ニューヨーク、ミラノでは見られなかった素晴らしい食材が、青森県にはたくさんあることも分ってきた。



青森県物産振興協会事務所に

赴任して3ヵ月後からは課題のカタログの作成・英訳を纏めに掛かると共に販路開拓に待望の海外に出掛けて行った。最初がシンガポールだった。出張した先で、自然に伊藤忠時代に教えられ、実績を挙げてきた、「商売の可能性があると見込んだ相



青森県物産振興協会事務所が入っている青森県観光物産館（アスパム）を背に

手を見つければ必死に食らいつく」というやり方が思い出され実行した。その結果、某社の社長と親しくなり、リンゴとリンゴジュースの商売ができ、今も続いている。その後、インドネシアのジャカルタ、ベトナムのハノイ、ホーチミン、台湾の高雄、台北にも出張した。台湾ではシンガポールと同様のやり方で、キーとなりそうな某社の社長、経理と親しくなり、青森県産品の売り込みを仕掛けている。

青森市は、緯度がニューヨークと同じで夏は乾燥しており、短い真夏以外は木陰に入れば過ごしやすい。毎年8月には最大のイベントである「ねぶた祭り」がある。目の前で見る迫力は聞きしに勝る驚きと感動の連続だった。また水の流れる美しい奥入瀬渓流も体験でき、今春には全国的に有名な弘前城の桜を見に行ったら。他にも世界遺産の白神山、下北半島の恐山、古墳の三内丸山遺跡、乙女像の十和田湖、酸ヶ湯温泉をはじめとする温泉も至る所にあり、豊かな自然や楽しいところが満載だ。加えて今や専門分野になった食品は、日本一のリンゴ、大間のマグロ、ホタテ、八戸のサバ等の新鮮な刺身が豊富で美味しくいただける。

こう見てくるといいところだらけの青森県のように見えるが、唯一と思える欠点に気付かされたのが冬だった。今冬は特にかつてない程の積雪で、厳しい寒さに襲われ苦労した。今後はこの冬の楽しみ方を見つけないかと思っている。

青森の春・夏・秋は最高です。たくさんある見どころを楽しみながら美味しいものに舌鼓を打ちに来て下さい。

自治体・中小企業支援

富山県 環日本経済交流センターでの活動

富山県環日本海経済交流センター 海外販路開拓支援マネージャー **かの けん** (元 住友商事)

私がABICの御紹介で(財)富山県新世紀産業機構、環日本海経済交流センターの海外販路開拓支援マネージャーに任用されたのは2011年4月であった。富山県在住、商社での貿易業務および海外駐在経験等が任用条件となっており、2009年11月に故郷の富山市に戻っていた私にはびったりの仕事であり、更に週3日勤務というシフトなので無理をしないで余暇を自分の趣味に費やしている。

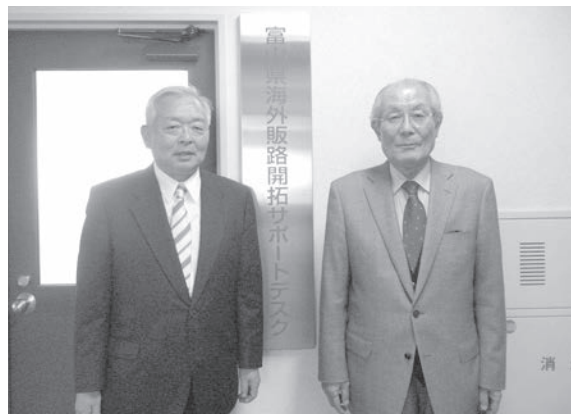
元来、当センターでは「環日本海」の国々である中国、ロシア、韓国などを対象とした経済交流を目指してきているが、近年東南アジア諸国への工場進出を検討される富山の中小企業も増えてきており、それに伴う相談が増えることが見込まれるために、当センター内に「富山県海外販路開拓サポートデスク」が設けられ、私はそこで東南アジア関係の御相談に応じている。

私は住友商事時代には鋼材貿易業務に就いており、中東3カ国(エジプト、サウジアラビア、イラン)、東南アジア2カ国(シンガポール、フィリピン)での駐在中も鋼材の貿易を主業務としていた。

住友商事を退職後は縁があって、ベトナムのハノイ(タンロン工業団地)およびタイのチョンブリ(アマタナコーン工業団地)で会社登録から、工場建設、商業生産開始までの作業に取り組んだ。ベトナムの工場を立ち上げたのは2005年のことであり、タイの工場は2008年に立上げた。多くの苦労はしたものの、これらの経験が現在の海外販路開拓支援マネージャーとしての業務に非常に役立っている。

現在の業務に就いてから1年間余りで80件を超える御相談を受け付けたが、その中で既に工場進出を決定済みあるいは進出済みの企業は、進出国としてはベトナム、タイ、フィリピン、台湾で合計7社になる。また、間もなく進出決定が見込まれる企業はいずれもタイ進出であるが2社ある。

この1年間の円高の進行および内需の減退で、やや保守的な気質の富山の企業の方々もさすがに海外進出を検討しなければならない状況になっているものと思われる。



藤野文悟 環日本海経済交流センター長(元 伊藤忠商事 常務取締役) (右) と

この仕事をしていて本当に良かったと思うのは、以前相談にお見えになった人たちが海外の現地で工場の立上げ業務に元気に励んでいらっしゃる姿を見ることである。去年12月にベトナム、カンボジアに出張したが、富山の私の事務所まで何回かお話をさせて頂いた方が慣れないベトナムのホーチミンで元気に働いていらっしゃるのを見て感激した。この人なら絶対大丈夫と思っていたが、予想が当たった。この方以外でも相談にお見えになった30~40歳代の働き盛りの人たちが進出決定済みあるいは建設中の現地工場に既に駐在されており、富山の企業の人材の底堅さを物語っているものと思う。

ただ最近、日系企業の進出ラッシュで工業団地の空きが激減していたり、インフレの進行で最低賃金が高騰している国が多くなっている。そのため進出場所として現在お勧めしているのはベトナム南部やカンボジアである。これらの地域では新規の工業団地がまだ建設中であり、また中小企業の立上げ時の資金負担軽減のためにレンタル工場もそれらの団地内で準備されている。また、ミャンマーは民主化が進展し、多重為替の一体化がこの4月に実現したことに加え、平均賃金がベトナムをはるかに下回るレベルと言われており、進出先の候補地として大変注目されているが、富山の企業の方にもこの流れに乗り遅れないようお勧めしたいと思っている。

教育

多摩大学での講義「イスラームの食文化」を終えて

かとう 貴美恵 (NPO パレスチナ子どものキャンペーン 会員)

2011年6月、ABICが多摩大学グローバルスタディーズ学部で担当されている講座「世界の食文化」において、「『イスラーム世界の食材と料理と食事の仕方』というテーマで話をしてほしい」との打診があった。ABICには夫（中東社会経済史を専攻する研究者）が中東関係のプロジェクトで既にお世話になっており、その関係で、私が中東料理会や試食会でイスラームの女性について話をしているということを知られたようだ。厚かましくもお引き受けし、若い学生たちに中東流のおもてなしの雰囲気を感じてもらいながら、テロや戦争ばかりではない、中東での平安な日常や女性の生活についても知ってもらいたいと思った。

20年前になるが、夫の調査研究先であったエジプトに幼い息子と共に約1年滞在した。古代文明・イスラーム文明・近代文明が混在する社会に驚くとともに、次から次へと興味が湧いた。中でも、カイロ郊外の農村を訪れた時や夫の知人たちのお宅に招かれた時、豊かな食材で何種類もの料理を作って、温かく迎えていただいた感動は一生忘れられないものとなった。それ以降、料理に関心を持ちながら中東10カ国を旅した。

この度の多摩大学での授業（2011年10月21日、2012年5月18日）に向け、かなり緊張しながら授業用PPTとレジュメを準備した。前日には料理を開始した。当日朝、中東の食材、香辛料、料理、テーブルクロスなどをキャリーバグ一杯に詰め、いざ湘南へ！

授業は午後の3限と4限。3限でのテーマは、Ⅰ. 中東アラブ世界における食文化の地域的多様性、Ⅱ. イスラーム



世界の行事：二大祭りについて（断食と断食明けの祭り・メッカ巡礼と犠牲祭）、Ⅲ. イスラームの食物禁忌とハラール食品、であり、写真を多く用いながら講義した。

4限の前半はラウンジに移動して試食会。眠そうにしていた学生たちも活き活きと蘇り、てきぱきと準備をこなしてくれた。テーブルにはシリアのテーブルクロスが掛けられ、学生がレンジで温めてくれたラムのオクラシチュー・鶏肉のモロヘイヤスープ・レンズマメの料理が並ぶ。他には、香草入りサラダ・ブルグル（挽き割り小麦）・アラブ風パン・ディップ2種。そして絶対欠かせないのはナツメヤシの実（デーツ）。聖書の『生命の樹』として神聖視されている常緑高木で、中東の特産品である。デーツは消化が良く、栄養価が高いとされる。

25名の学生たちはテーブルを囲んで立ち、ラマダーン（断食月）のクイズに答えながら預言者ムハンマドに倣ってまずはデーツを口にし、そして試食会。その間、食前食後の祈りの言葉、食事のマナー、古来の伝統的な食事風景と現代との違い、などを紹介。女性は家族や親戚など親しい間柄でなければ、公の場では男性と分かれて居る慣習となっていることや、女性たちがヘジャーブ（ベ



テーブルに並べられた試食用の料理の数々



試食が進むにつれて学生の動きも活発になる



特殊な包丁でモロヘイヤ（野菜）を刻む学生

ール)などで身を覆うことを、聖典コーランを引用して説明。同時にイスラーム圏でも国や地域によって法の厳しさや個人の信仰心の表し方・意識が違ふことを、体験談も交えて話した。

学生たちは料理に興味深げに味わいながら、互いに感想を交わしていた。一番人気はモロヘイヤスープ。専用の包丁でモロヘイヤ刻みも体験した。香草やラム肉には微妙な反応の学生もいた。教室に戻り、結婚と出産にまつわる食の話を少々。授業最後のリアクションペーパーには、「テロと厳しい戒律ばかりのイメージが、かなり変わった」「女性蔑視の固定観念と違っていた」「ホテルに

就職できたら接客に役立てたい」など、着目点も様々で、熱心に書かれた感想が多かった。

「イスラームの食文化」の授業のため、改めて農産物や家畜の歴史を勉強した。人間が古代より大河と砂漠を特徴とする自然に抱かれながら、大切な人と人との命をつなぎ、更にはつながりを結ぶために一心に食に向き合い、豊かな食文化を育んできたことを学んだ。そして時間と空間を越え、私自身も同じ営みをしていると感じた。

このようなすばらしい機会を下さったABICの皆様、そして、他の地域や食材を担当された7名の講師の方々に、心から感謝申し上げたい。

教育

立正大学での英語による講義

もり ひでお
森 秀夫 (元 昭和シェル石油)

ABICが新規に受注した立正大学 国際交流センターにおいて、英語での講義が行われ、その一部を担当した経験に基づき雑感を記してみます。

立正大学 国際交流センターは、日本一の暑さで毎年話題に上る埼玉県熊谷市にキャンパスを構え、仏教系の同大学との大学間海外協定校からの交換留学生を受け入れ、日本語・日本文化を中心とした教育の場として機能している。

この英語での講義は特別なケースではあるが、国際交流センター長の非常な努力によって実現したプログラムであった。今回の受講対象生(6ヵ月間の外国人短期留学生)は全てが海外協定校に学ぶ文系の3年生であり、国籍別では韓国・中国・ニュージーランド・フィンランド・チリ等で多国籍、そして性別では若干女性数が上回った構成であった。

講義は「英語による鳥瞰^{ちようかん}日本経済」(Bird's eye Japan's Economy)をタイトルに、15週間(2011年9月~2012年1月)にわたり、ABICのメンバー6名がオムニバス方式で各人のテーマについて各々2~3コマの講義を行った。

講義概要は、① 過去30年間の日本経済、② 日本経済の強みと弱み、③ 日本経済の独自性・課題・将来展望等を骨格に構成した。受講者に対する成績評価は、英語での「Reflection sheet(各人の理解度・疑問点等を自由記述し毎講義終了時提出)」と「Report(課題に関しテーマ毎に提出)」を義務付け、「出席率」と「講義貢献度」を加味した。

筆者の担当分野は、「日本経済の弱み：資源問題」をテーマに、鉱物資源(特にエネルギー)の海外依存率、需給バランス、環境問題、代替エネルギー等を中心に講義を進めた。

前述の通りに受講生たちの多様なバック・グラウンド(英語力・専攻学科・出身国情)を考慮して「説明資料(ppt)はビジュアル」に、「説明はコミュニケーションとしての英語」を念頭に、冒頭では受講生たちの緊張を解くゲーム(アイス・ブレイキング)も行うことでスムーズな展開ができた。エネルギー資源は、全世界的に共有する問題点が多く、受講生たちの関心は高かった。特に需給状況、環境問題、自然エネルギーについては「Reflection sheet」にも意見や質問が多々見られ、関心の高さを感じた。

今回は日本語・日本文化の習得を主目的にした海外留学生への講義であったが、国際化の進む中、将来的には日本人大学生に対する英語での講義はますます増えると思われる。海外での実務経験豊富なABICメンバーに対する要請は増加することであろう。

また、2011年8月にはABIC主催の講習会「英語による講義法」に出席させていただき、多くのヒント・手法を学べたことは筆者の今回ならびに今後の活動に向けて背中を押してもらった感があった。

末筆になりますが、この様な刺激の場を提供していただいたABICに感謝申し上げます。

教育

茨城県水戸市・大成女子高等学校で国際理解講座を開講 「日本語指導を通じて見たブラジル・アマゾンの日系人社会」

なか せ ひろこ
中瀬 洋子 (元 JICA 日系社会シニアボランティア)

今年2月、茨城県水戸市にある大成女子高校にて「日本語指導を通じて見たブラジル・アマゾンの日系人社会」というテーマでお話をした。同じ関東に住んでいながら、水戸を訪れるのは初めてであった。どんな生徒さん達が待っていてくれるのか、わくわくした気持ちで上野駅から常磐線「スーパーひたち」に乗り込んだ。

学校の体育館では180名余りの女子生徒さん達が迎えてくれた。そういえば私が「いつか国際協力の一端を担う人間になりたい」という夢を抱き始めたのも高校生の頃であった。結婚後、子育てが一段落して日本語教師となり、それから長い年月を経てようやく実現した異文化での体験を、昔の自分にも語りかけるような気持ちで話し始めた。

私がJICAボランティアとして2年間赴任していた町ベレンは、ブラジル北部を流れるアマゾン川の河口にあり、日本からは飛行機を乗り継いで丸2日かかる。赤道直下の自然環境、そこに生きる人々の暮らしなどを写真で紹介した後、なぜ広大なアマゾン川流域に日本語学校が点在しているのか、どのような人たちが日本語を学んでいるのか、日本人移民の歴史に触れながらお話しした。

初めてアマゾンに日本人が集団で移住してから80年余り、灼熱の太陽、雨季になると増水する水、マラリアなどの熱帯病などと闘う厳しい開拓生活の中で、人々は子供たちのために学校を作り、教育を授ける大切さを実践してきた。

祖国を離れていても子供たちには日本にルーツを持つことに誇りをもってもらいたい、日本語を通して日本人の気質を伝え育てたいという親たちの強い思いで80年以上も日本語教育が受け継がれてきたのである。

他のどの国の移民も敗退した過酷なアマゾンで、苦労の末、唯一日本人が胡椒とジュートの栽培に成功し、ブラジル経済に大きく貢献したこと、彼らの生きる姿勢が、「ジャポネス・ガランチード（信頼できる日本人）」としてブラジル人に高く評価されてきたこと、そして今では日系人だけでなく、多くのブラジル人が日本語を学び、日本文化がブラジル社会に裾野を広げていることなどを



お話しした。

その中で、現在日本語学校で学んでいる日系3世とブラジル人の2人の女子生徒の作文を紹介した。日系人の生徒は「はじめはお母さんに言われていやいや日本語学校に通い始めたが、日本語を学ぶうちに、祖父母が苦勞して両親を育ててきたことを知り、自分が日系人であること、日系人なら日本語を学ぶべきだと思うようになった」と書いている。一方、ブラジル人の生徒は「身近にいる日系人を通して自分の国とはとても違う日本の文化や習慣に興味を持った。日本人の強さの歴史を子孫に伝えていきたい」と綴っている。自分のルーツに誇りを持ち、相手の文化に敬意を払うことでお互いの理解が深まるのだと感じる。

外国で暮らしてみると、日本では当たり前すぎて見過ごしていたことの大切さに気づくことがある。ブラジルに生きる日系人の日本を想う気持ちに触れるにつけ、便利さや経済性ばかり追い求める私たちは何か大事なものを失っていくような気がしてならない。

異文化に触れることは、日本人としての自分を意識すること、異なるものと交わることは、自分自身を知ることである。その上で、積極的に世界に目を向けてほしいという願いを込めてお話しした。

最後まで熱心に聴いてくださった生徒さんたち、またこのような機会を与えてくださった大成女子高校の先生方に心より感謝している。

非政府機関支援

エコロジー促進事業協同組合が実施する 外国人技能実習生への日本語研修 —ABIC会員40名が講師として登録

2011年5月にエコロジー促進事業協同組合の高野理事長からABICに、同組合が実施している外国人技能実習生に対する集中日本語講座の講師紹介の依頼があった。

同組合の外国人技能実習が公的制度に則り、今までにも多くの実績があり、またABICの国際社会貢献並びに外国人に対する日本語教育促進の観点からも意義ある活動と認識し、昨年7月にABIC会員へ同組合の日本語講師につ

いて説明会を開催。趣旨に賛同頂き日本語講師として登録頂いた会員は40名となった。

ABIC会員による日本語研修は現在まで4回、延べ7名の会員が研修生と赤城、御殿場、那須の国立青年の家に泊まり込み、1講師平均6日間の講義を行った。第1回目の講師を務められた松本会員から以下の感想が寄せられたので紹介する。

フィリピン人技能実習生へ日本語を教える

まつもと ときお
松本 時男 (元 蝶理)

教室に入ると全員が起立し「おはようございます」、と挨拶を受けた。授業中ではあったが初めての人を迎える時は挨拶をする習慣がついている。授業の始まる前には、勿論全員が起立し「よろしくお願いします」の挨拶があり、「ありがとうございました」で授業を終わる。廊下で出会うと、その日の最初の時だけでなく、出会う度に「こんにちは」と挨拶をする。朝一度挨拶をしたので2回目からは挨拶しなくていいだろう、という発想はない。当然のことながらこちらも一日に何度も挨拶を返すことになる。

食事の後は全員が厨房の前に整列し、厨房の方に「ごちそうさまでした」と挨拶をしている。2012年3月の白河での授業の時はたまたまアメリカ人の英語教員のグループも研修に来ていた。しばらくして気がつく彼らも食後に厨房の方に、実習生と同じ様に挨拶をする様になっていた。しかし、不思議なことに日本人のグループにはそれは見られなかった。

研修は毎回文部科学省所管の青少年の家等の施設で行われているが、ここの決め事として「朝の集い」「夕べの集い」が日曜日も含め毎日行われている。ここでも実習生の礼儀正しさがすぐに分かる。殆どいつも一番早く集合場所に集まっているのは実習生であり、後からやって来るのは日本人である。国旗・所旗の掲揚・降納、ラジオ体操の際の皆の前での実技などについても積極的にやる意欲が見られる。

中国、フィリピン、ベトナム等の国々から技能実習生を受け入れているエコロジー促進事業協同組合（以下、協同組合）さんからABICが彼等に対する外部日本語教師の委託を受け、その一人としてフィリピンからの技能実習生相手に日本語を教える機会に恵まれた。3月の那須（白河）



国立那須甲子青少年自然の家（白河）で
最後の授業後、教室で記念撮影

中央が筆者、その右がエコロジー促進事業協同組合の西脇専務理事、
外国人技能実習生受入事業部の和久部長と田代氏（右端の女性）

での実習は彼等が来日して4日目から授業を受け持ったが、このわずか3日間の期間に彼等はこれだけ素晴らしい礼儀作法を身につけた、というか、協同組合さんはその様に教育をされている。企業に派遣する以上は言葉（日本語）だけでなく、日本での礼儀作法、文化を知ってもらいお互いに、この会社に派遣してもらってよかった、この人達に来てもらってよかった、と言える環境づくりをされている組合さんにさすがにこの道の専門家であることを感じる。

授業だが、やはり最初の一時間目はややかたい。しかし、少し慣れてきた段階に実習生同士で会話をさせると実に面白い会話のやりとりをしてくれる。部屋中が爆笑になることもあるし、また、「え〜」とひやかされる実習生も出てくる。こういう会話が早い段階でできる様になると実習生の名前を覚えるのも早い。

とにかく熱心なのが気持ちいい。「夜補習をしようか」

と声をかけると、全員が「はい」と応える。朝の集いで自己紹介をしますが、これでいいですか、と原稿をもってくる実習生もいる。自分の名前を漢字で書きたいのですが、と言ってくる実習生もいる。そして、うれしいのは最後の授業の日にグループで手紙をくれたことである。

多国での長い海外駐在により日本語教育に強い関心を持



国立那須甲子青少年自然の家（白河）での授業
(2012年3月)

っていた私は2006年に開講されたABICの「日本語教師養成講座」を迷わず受講した。会社人生活を卒業後もこのような国際的な取り組みに関わることが出来るのも協同組合さんとABICのお蔭であり恵まれた人生である。この様に彼等が育った、そしてアセアン諸国の中で未だ訪問したことのないフィリピンを是非早い機会に見てみたいと思う。



最後の授業後、教室への入り口で実習生と

留学生支援

東京国際交流館 春の新人入館者歓迎バザー

5月26日（土）に国際交流館の広場で、恒例のバザーと歓迎会が新しい入館者のために催された。雨天に祟られた前回、前々回と異なり、当日は青空と太陽がまぶしくお台場特有の浜風が吹く、初夏を思わず一日であった。

今回のバザーは、バザー運営の中心となるRA（日本人学学生在館者）の人手不足に対処するため、ABICは人的支援の要請を交流館から受けることとなった。

この要請に対し、同館の「日本語広場」で講師を務めるABIC会員10名がバザー販売係として参加した。

ABIC会員、支援企業とその社員、日本貿易会事務員からの400箱の寄贈品並びに若い学生たちと経験豊富な会員が一緒になって活動したためか、前回（昨年秋）を35%上回る24万円の売上を確保できた。この売上金は従来通り交流館の留学生への支援金に供せられる。

当日は、文部科学省高等教育局学生・留学生課より専門官、課長補佐、係長の3名が来場され、ABICの留学生支援活動を視察し、今後とも同館を中心とした交流の推進協力の要請を受けた。

（留学生支援担当グループ）



会員の種類

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 1口 50,000円
		個人 1口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、並びに個人、法人及び団体。	法人及び団体 1口 10,000円
		個人 1口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

正会員

団体・法人 (18社) 〈社名五十音順〉

〈10口〉 (社)日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株)
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 協同木材貿易(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人 (9名) 〈入会順・敬称略〉

池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男
 岡 素之 佐々木 幹夫 勝俣 宣夫 〈3口〉 小林 栄三

賛助会員

法人 (3社) 〈社名五十音順〉

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ キーリサーチネット(株)

個人 (377名)

〈3口〉前田茂 〈2口〉遠藤寿一 及川洋 小川秀洋 鬼山敬邦 川俣二郎 久佐賀義光 公平伸夫 古知屋順
 三幣利夫 志岐明弘 新藤哲雄 高廣次郎 多田勝彦 田中武夫 綱川渡 東宮邦雄 花岡信明 原芳道 坂東寛隆
 肥後照雄 福田洋子 藤井吉郎 藤井眞 前田耿史 松岡鉄 松村茂 宮内雄史 名鏡敬治 柳沢信義 山田芳正
 山本寧雄 山本一良 米代憲雄 〈1口〉会川精司 相原正和 赤澤克夫 赤田堅 芦刈茂樹 東光子 安達晋
 厚浦孝之 安福哲一 安部忠 阿部徹 阿部雅志 荒尾紀倫 有田五郎 有田捷一 居内律治 庵原専三 伊賀豊和
 猪狩眞弓 生島幸哉 石川清 石束吉孝 石橋満 伊藤栄太郎 伊東孝之 伊東泰 稲永丈夫 稲本卓三 井上宏
 井上良彦 今井明良 今井宏 今井正孝 岩本洋之 植田俊 上田博晟 上野和郎 上野日出雄 上森義美
 浮貝泰匡 宇佐見和彦 薄葉徹郎 宇田定三 内川博文 内田康治 漆崎隆司 江藤茂雄 榎本盛明 榎本啓一郎
 江幡吉信 遠藤眞喜子 扇文子 大久保浩司 大久保徳衛 大浩義之 太田宏 大塚昭雄 大西稔男 大橋幸多
 大道豊彦 大森日出太郎 岡田一茂 岡田恵二郎 岡部紘 岡部好夫 岡本正 岡本徹 小川晴久 小川洋志郎
 小口良喜 小國輝雄 奥山正裕 小沢規夫 小澤清水 小野勝彦 小畑克之 小船井達夫 表尚志 織辺重之
 恩田英治 柿山章 角井信行 風間誠 片岡紀二 片野無事生 片山丈義 勝部實 加藤正芳 加藤保弥 金井好弘
 嘉根俊治 金子和夫 金子康之 金子義久 神谷誠一 加輪上敏彦 川嶋則男 川副和之 川村哲也 川本康博
 川本恒彦 岸達也 北詰良三 吉川和夫 木村好作 木村滋 木村秀志 久木田修司 楠井裕章 久保田隆

(賛助会員続き)

久保山毅 隈元泰弘 久山周孝 倉本泰信 栗田政彦 黒岩浩一 黒岡誠一 鋤形勲 郷原康親 国分利敬
 古園井良 児玉正博 後藤克 小島孝治郎 小峯征三郎 小室洋三 近野治夫 酒井栄造 坂井啓治 酒井邦展
 坂上恵一 坂本章 坂本俊寛 作田幸夫 笹岡治男 佐藤貴実雄 佐藤徹 佐藤充宏 佐藤隆二 佐良木忠男
 沢田修吾 澤田豊治 塩野寛次 七字道彦 篠崎尚 篠田正義 島悠紀夫 城台巖 白土茂雄 城田比佐子 水光勲
 須賀直比古 鈴木一三 鈴木惟高 鈴木成高 鈴木紘司 鈴木松子 関晃典 関統造 関口幸男 園田真一
 醍醐俊明 高崎浩敏 高嶋宏臣 高田維有 高田忍 高田弘 鷹津俊一 高塚謙次 高梨和彦 竹下浩 竹田信志
 竹山克則 田島一靖 田島義彦 橘弘志 田中昭彦 田中功 田中剛 田中徹郎 田中英樹 田邊正明 谷川達夫
 谷口武彦 田内裕 玉木興畠 丹治敬 淡野武司 千野滋樹 千原長美 柘植幸弘 辻哲彦 辻萬亀雄 辻尾嘉文
 土屋英五 都築秀之 津守克平 手塚正明 寺澤昌敏 寺田好純 遠山晃 戸川順治 富島紘一 友國洋 中倉弘紀
 中嶋鴻明 中島隆一 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 中西康孝 中野英俊 永峰千年 中村静雄
 中村昂 中村紀雄 中村恭紀 中山文麿 梨本進 西桂二郎 西澤俊一 西村寿浩 西山勝昭 新田充成 根岸史修
 野口順一 野地哲臣 野津浩 信森勝治 野村哲三 則満洋祐 萩谷敦 橋本裕一 橋本政彦 橋本勝 蓮沼恒郎
 畑宏幸 畑野浩 花澤和郎 羽生憲夫 浜田元雄 林進 林常介 林良英 葉利博 日笠徹 疋田和三 菱川治
 日比野圭三 平田一男 平野實 廣田幸男 福井隆治 福原卓司 藤井健一郎 藤井希祐 藤井義親 藤井重隆
 藤川一弘 藤木祥平 藤田敬子 藤田卓 藤田幸雄 藤村登 藤原照明 布施克彦 古瀬輝明 古橋肇 保坂庄司
 星野和俊 星野三喜夫 細野良敦 堀正美 堀江博 前田祥治 前田直明 増田孝次郎 増田政靖 増本光男
 松井清治 松浦義則 松岡壽夫 松下敏明 松田洋三郎 松村直治 松本信司 松本時男 松山久 眞弓博司
 丸山松男 三上亜佐橘 三木喜道 水川久夫 味田村正行 三栗敏 光山武志 南賢 峯岸伸夫 峯本晴輝
 宮井利之 宮内貴正 宮川正裕 宮崎善嗣 宮本正明 武藤滋郎 村井靖武 村澤嵩 村瀬和男 村瀬省三
 村林栄彦 持田修二 望月孜 森悦郎 森岳三 森和重 森達也 森川建夫 森松直毅 安田勤 柳田敏明 山内幸雄
 山岸正雄 山路裕之 山田雅司 山田恭暉 山邑陽一 山本啓二 山本秀一 山本博勝 萬木寛 横井正豊
 横田納 横田淑子 横山泰雄 吉川正男 吉田紘 吉田房子 吉田泰興 吉富茂隆 鷲頭三郎 渡邊健三

活動会員 2,224名

(2012年5月末現在)

【ABIC賛助会員入会のお願い】

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員及びその他の個人の方、並びに法人及び団体の皆様のご入会をお願い申し上げます。

ご入会はABICホームページ (<http://www.abic.or.jp/>) の「**会員入会案内**」をご参照の上、「**お問い合わせ**」メールフォーム、または下記へご連絡ください。

【ABICの人材紹介・推薦のご案内】

ABICは海外経験・知識が豊富な商社OB等の人材を、国内外の様々な分野における活動に紹介、斡旋、推薦しております。人材についてのご相談、お問い合わせは、ABICホームページの「**お問い合わせ**」メールフォーム、または下記へご連絡下さい。

お問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC) <http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6F 一般社団法人 日本貿易会内

TEL:03-3435-5973 FAX:03-3435-5979 E-mail:mail@abic.or.jp